平成２６年度 第１回安曇野市新市立博物館構想策定委員会　会議概要

| | |
|---|---|
| １ | 会議名　　平成２６年度 第１回安曇野市新市立博物館構想策定委員会 |
| ２ | 日　時　　平成２６年１０月２９日（水）　午後1時３０分から午後3時まで |
| ３ | 会　場　　安曇野市明科複合施設　会議室３ |
| ４ | 出席者　　笹本委員長、石田副委員長、福島委員、平田委員、浅見委員、滝沢委員、浅川委員、小椋委員、大月委員、西垣委員 |
| ５ | 市側出席者　　望月教育長、北條教育部長、那須野文化課長、熊井博物館係長、小倉博物館係員、逸見博物館係主査、亀山（乃村工藝社）、中瀬（乃村工藝社） |
| ６ | 公開・非公開の別　　公開 |
| ７ | 傍聴人　　１人　　記者　１人 |
| ８ | 会議概要作成年月日　平成２６年１１月６日 |

会　議　事　項　等

１　会議の概要

１．開会　（北條部長）

２．教育長あいさつ

３．委嘱書交付

４．自己紹介

５．正副委員長の選出

６．正副委員長あいさつ（笹本委員長・石田副委員長）

７．議事（進行・笹本委員長）

（１）設立経過、主旨、設置要綱等について・・・(資料１)

（２）博物館施設の現状について・・・・・・・・(資料２)

（３）今後の進め方について・・・・・・・・・・(資料３)

（４）その他

８．その他

９．閉会

２　会議概要

**１．開会**

北條部長・・ただ今から第１回安曇野市新市立博物館構想策定委員会を開催する。大変お忙しい中をお集まりいただきありがとうございます。またこの度、策定委員をお引き受けいただき感謝を申し上げる。まだ委員長、副委員長が決まっていないため、それまでの間、北條が司会進行を務めさせていただく。委員会の設置要綱第６条第２項の規定により、今回、委員の半数以上が出席しているため、委員会として成立していることを報告する。初めに望月教育部長よりご挨拶を申し上げる。

**２．教育長あいさつ**

望月教育長・第１回安曇野市新市立博物館構想策定委員会にご参集いただきありがとうございます。また、日々、安曇野市の教育行政、とりわけ文化振興にご理解とご協力を賜り、大変感謝している。現在、安曇野市には公私立合わせて 20 館以上もの博物館、美術館、資料館等があり、このように多くの施設を持っていることは安曇野市の特徴であり、市民にとっては大事な財産になっている。このうち、市立の施設は９館あり、多くは築 20～30 年が経過し老朽化が進んでいる。さらに、狭いため、トラックヤード、荷解室、温湿度の管理ができる収蔵庫や学習スペースなど、博物館活動を展開する上で必要な機能が十分に整っていない。また、各館の活動理念や事業内容は旧５町村のものをそのまま引き継いでおり、安曇野市全体の中での位置づけがなされておらず、それを明確にしていく作業が必要である。一番大切ともいえる職員体制については、館活動の柱

となるべき学芸体制が整っていない。また、入館者の減少など、それぞれの施設が多くの課題をもっている。これらの課題を解決し、市民の求める博物館のあり方をご検討いただくため、本委員会を立ち上げることにした。　新市立博物館構想についてご検討いただき、教育委員会に対する提言をお願いしたい。地域文化をよりよい形で将来に引き継ぐことができるよう、ご審議をお願いしたい。よろしくお願いいたします。

**３．　委嘱書交付**

教育長より各委員へ交付

**４．　自己紹介**

各委員から自己紹介

**５．　正副委員長の選出**

北條部長・・これから委員長、副委員長の選出を行う。会議資料１－４を見ていただくと、第５条に「委員会に委員長及び副委員長を置き、委員が互選する。」となっている。どういう形で選出するのがよいか、委員の方々からご意見をいただきたい。

委員・・・・今日初めて参集し、まだ様子もわからない状況なので、事務局の方で腹案があればご提示いただきたい。

北條部長・・それでは、事務局の案を発表させていただく。委員長は笹本正治さん、副委員長は石田益雄さんにお願いしたい。皆様よろしいでしょうか。

各委員・・・了承。

北條部長・・それでは、委員長は笹本正治さん、副委員長は石田益雄さんとする。よろしくお願いいたします。

**６．　正副委員長あいさつ**

委員長・こういう会は委員によって成り立っている。私はシャンシャンは嫌いなので、委員の方は必ず発言してほしい。日当も出ているので、皆さん、仕事をしてほしい。今日これから皆さんに博物館を見ていただくが、おそらく皆さんが思っているような博物館と実態は大きく違うと思われる。博物館とは一体何であるかということを考えながら見てほしい。私たちにとって一番大事なのは、安曇野の未来はどうなっていくか、博物館を通じて、安曇野の未来をどう創っていくか、ということなのではないか。それから、委員の皆さんには、この会議では徹底的に論議していただいて、会で決まったことのスポークスマンになっていただきたい。自分の意見とは違っていても、責任をきちんと取りながら次の議題を検討していけるように協力していただきたい。私は状況をよくわかっていないので過激なことを言うかもしれないが、副委員長が控えてくれているので安心している。皆さんよろしくお願いします。

副委員長・私は上田市の別所温泉で生まれ、昭和４５年にこちらの人間となった。当初、上田との文化の違いを感じたが、住み慣れてしまうと当たり前になる。委員長からいろんな発言があったが、私自身、文化の違いみたいなものがわかっていればよいが、この安曇野に、安全地帯にどっぷり浸かり込んでしまったところもなきにしもあらず、である。委員の皆様のお声をお聞かせいただきながら、委員長のサポートというのはおこがましいのだが、年寄りが邪魔にならないようにだけはしたい。よろしくお願いいたします。

**７．　議事**

那須野課長・資料の説明に入る前に、本日の日程について申し上げる。午後３時をめどにご協議いただき、その後、施設回りを３か所ほど予定している。そして、次の機会でも施設回りを行う予定である。かなり日程がタイトで忙しいのだが、皆様に現場を覚えていただく機会としたい。詳細はまた係より説明する。実質的な協議は３回目からとなる。本日の協議事項は、どういうふうに会議を進

めるのか、今後どういうところにポイントをしぼって協議を進めるのか、その方向の確認に留めたい。よろしくお願いいたします。

**（1）設立経過、主旨、設置要綱等について**

那須野課長より、委員会の設立経過、主旨、設置要綱等について、資料１を用いて説明

委員長・もう一度確認するが、資料１の２ページ目の上の方、「教育基本計画と文化振興計画等により、新市立博物館の具体化が謳われており、」とある。その上で、「文化振興計画には豊科近代美術館は安曇野市の基幹美術館とすること、また郷土の情報センター・学習センターとなるべき新市立博物館について、構想の具体化を目指すよう明示されております。」とある。そのもとに、安曇野市の文化全体をどうしていきたいかを委員の皆さんが意識しなければならない。個別具体的な博物館の前に、将来の安曇野市の文化があるのだということをご理解いただいて前に進んでいきたい。ただいまの事務局の説明について、ご質問、ご意見等がありましたらお願いします。

各委員・・・なし

**（2）博物館施設の現状について**

熊井係長より、安曇野市の既存博物館・美術館の位置や概要、それぞれの現況について、資料２を用いて説明

委員長・委員の皆さんには一応概略だけ掴んでいただきたい。なお、私の方からお願いがある。皆さんのお手元に、安曇野市の新市立博物館構想の策定委員の委員証があると思うが、これを提示すると無料で見学することができるので、ぜひ、各施設を見学してほしい。私たちが勉強しなければいい博物館はできない。博物館協議会でも言うのだが、行って、いろいろ意見を言ってほしい。学芸員の方たちも、いいと言ってほめるとどんどんよくなるし、悪いところは直してくれる。私たちがどれくらいの意識を持って博物館を見るかによって、次の博物館をつくれるかどうか、がかかっている。皆さん率先して行くようにしてほしい。私も時間を見つけて行っているつもりである。ただいまの事務局の説明について、ご質問などありましたらお願いします。

各委員・・なし

**（3）今後の進め方について**

事務局側出席者より、各自自己紹介。

那須野課長より、今後の進め方について、資料３を用いて説明。

那須野課長・まず、この委員会をどのように進めるかの大前提についてご説明申し上げる。本来、博物館構想は新しい博物館を建設する、という前提で策定される、ということで我々もとらえてきた経緯がある。今、期限が迫る合併特例債を見込んで、その実現を図る機会であることは違いない。一方、特例債がらみの公共施設整備は他にもたくさん計画があり、財政的な観点からも、そのすべてが事業化できる訳ではなく、博物館構想も然り、である。今回、博物館の新規設置とならない場合は、既存施設をうまく活用しながら中長期にわたって運用をしていくという選択肢もあるかもしれない。新規施設整備せず、老朽化した施設を使うとなれば、耐震化、バリアフリー化といった改修工事も行わなければならないかもしれないし、展示スペースや収蔵スペースが足りないとなれば、何らかの形で補うという工夫も必要になってくる。そこで、今回の構想では、「ケース１：新市立博物館を新規建設する」、「ケース２：既存施設を増改築する」、「ケース３：施設整備せず、既存施設を活用する」、この３つの案を前提として検討したい。目標がひとつであれば、議論をしやすいが、今回、安曇野市の多様な諸事情を含めて、この３つのケースでご検討いただき、最終的に、３つのケースのどれをとっても、実現可能なものとしたい。欲張った話ではあるが、せっかく作る計画なので、どういう状況におかれても、機能する計画としたい、というのが我々の思いである。この点をお含みいただきながら議論を進めていただきたい。

乃村工藝社より、安曇野市の博物館・美術館等が抱える課題、ケース１・２・３の具体的な内容や、各ケースにおける博物館が担う役割への影響について、資料３を用いて説明。

委員長・私の勝手な意見ではあるが、新市立博物館構想ですべて解決するものではない。博物館の役割として、①収集・保存、②調査・研究、③発信・連携、④育成・創造　と書いてあるが、基礎から始まってだんだん上にあがっていくと思われる。そうすると、新規に建設しない場合でも、ある程度お金がかかるだろうと思っている。個人的にはケース３もいいのではないかと思われる。例えば、WEB 博物館のような、まったく新しい発想があってもよい。その場合でも、資料を収集するという底辺の部分をどうするのか。一切無し、という訳にはいかない。そのため、ケース１、２、３、どれもお金がかからない、ということは、まったく思っていない。委員の皆さんにとって、博物館とは一体何であるか、というところの基本に立ち返って考えることが大切である。１の場合であったらば、一体どこに重点を置こうとするのかが重要であり、お金さえあれば膨大なものができる、膨大なものができると、今度は管理が大変になって、学芸員の皆さんもあまり努力しない、という状況も一方で見られる。それぞれのケースにおいて、どのような意図を持っているのか、それが一番大事である。

最終的には、私たちとしては、ケース１・２・３について、この順番がよい、ということを提言すべきだと思う。同時に、どこに重点を置いたから、こういう順序となる、ということも提言すべきと思われる。従来のように、お金がかかる・かからないではなくて、安曇野市の未来のためには最低条件としてやらなければならないことがあるはずだと思う。例えば、資料は無くなったら終わり、である。だとしたら、ケース３の場合であっても、収蔵場所だけは用意してほしい、と本委員会で提言すべきではないか。また、施設整備をしないので、そのために新しい装置としてWEB博物館をやろうとしたら、人の措置も必要なので、きちんと要望していかなければならない。その場合、従来の学芸員ではなく、世界から見てもらうために語学ができる者が必要であり、あるいは　展示のプロフェッショナルな映像も必要となる。単なるホームページをつくってもだれも見ない。また、それは市民向けなのか、お客さん向けなのか、も考えなければならない。

ケース１の場合であっても、市民用なのか観光客用なのかによって、立地もまったく違ってくる。展示も、これが展示したいからこれだけのスペースが必要である、という言い方と、お金がないからこれだけのスペースでやってくれ、と言うのとではまったく意図が異なる。私は、フリーハンドで、一体博物館とは何なのか、を考えていきたいと思う。私たちとしては言った以上、ここで決めた以上、責任を負わなければならない。私たちは責任をもって答申しなければならない。

この委員会は大変なことで、私たちの責任問題として、ケース１・２・３のうちどれを選び、１の場合はここに主体を置いてください、２の場合はここまでは我慢するけど、ここはちゃんとしてくれないと承知できません、３の場合は、など、そこまで言わなければ委員会として成り立たないので、覚悟を決めなければならない。勝手なことを言って申し訳ないが、今の説明とともに、本当に次の安曇野市を、文化を考えるなら、そこまで見ていかなければならない。何となく諮問されました、じゃあ私たちとしてこれがいいです、というだけではない。その上で、皆さん、事務局に対するご質問、ご意見などお願いします。これから先は言いたいことを言ってください。

委員・・資料３の１ページ「安曇野市の博物館・美術館等が抱える課題」の中に、「サービス施設」と書いてあるが、現在、穂高と豊科に立派な図書館があり、ここに書かれているような内容のサービスはすでに受けている。また、資料３の６ページ「安曇野市新市立博物館・美術館の主な要素」の中に、図書館の部分が入っていてもよいと思われる。図書館というものをどういうふうに考えているのか。

委員長・それについては私から回答する。本来、図書館も博物館施設であり、今まで、図書館と博物館は連動していなかったが、ご承知のとおり、このところ豊科郷土博物館は連動を始めた。「きぼう」や「みらい」の中に展示がある。今後、博物館を新しくつくる場合、図書館との連動は大きな課

題である。ただ、この資料にある「サービス施設」は異なるものである。普通、大きな博物館に行くと、ワークショップや講演会、その他いろいろな要素があり、博物館でしかできないサービスを提供しているが、現在、こうした提供ができる状況ではないということが問題である、とご理解いただきたい。私たちは次の段階の博物館をつくるために、一体何が足りないのかを提言すべきであって、単なる博物館施設をつくりましょう、ということではないと思っている。

委員・・安曇野市は合併して何年になるのか。既存施設は、それぞれの地域で生み出されたものであり、プラスマイナス含めて資産であると捉え、それを尊重することが大前提であると考える。それを統廃合するとなると、旧町村の施設が新しい安曇野市全体の中でどういう位置づけなのかをよくよく考えないと、どれを残すのか検討できない。これは博物館だけの話ではなくて、僭越だが、市政全体の問題にはね返ってくる。そういうことについての情報や、お考えを提供していただければありがたい。今こういう方向で地域構造を考えている、旧村はまだ生きている、この部分はかなり融合化しているなど、あまり真面目に考えるとつぶれてしまうが、個々の館の存続を考える場合、そういう情報をおしえていただければありがたい。

図書館の話に戻ると、私の勤めている長野県立歴史館では、博物館のベースに、公文書館と出土品の施設がある。20年前に歴史館をつくるときに、公文書館と博物館を併設するなんてふざけるんじゃない、といった意見が公文書館側から出て、それに半ば挑戦するような形になっている。本当は、図書館と博物館と公民館が１か所にあれば、図書館で借りて、博物館で見て、美術館で見て、公民館でやって、学校があれば学校の迎えができて、といった構造も頭をよぎる。

全国的に見ると、併設館みたいなところも増えてきている。人口減少社会において、特に新設の場合は　博物館だけの話ではなく、もう少し、周りのことも全部含めて考えていかなければ決着しないのではないか。

委員長・先に前半部分について申し上げる。私は博物館協議会の代表として来ているが、博物館協議会では、すでに明科の資料館は廃止した。市全体の中で維持費と人件費、入館者数を計算し、開館して何年経ち、これからどういう状況になるのか、今後成り立っていけるのかどうか、考えた上で切るべきものは切ろうと決定した。博物館協議会では総合的な新市博物館を建設してほしいという意見でまとまっているのだが、そのとき安曇野市立新市立博物館策定委員会は無く、連動していない部分もある。市の方の意見もあり、３つのケースから私たちはどれをとるかというのが私たちに任されていることだと思う。福島委員の言っていることは非常に重要であって、10年間で市はどう変わったのか、つまり市民や職員にとって、前に進んでいるのか、統合意識はあるのかないのかということは、実は博物館をつくるうえで大変重要だと思っている。本来、博物館は名刺だと思っている。石垣島に私設の博物館がある。米軍統治が終わって自分たちでやり始めた施設である。そのトップになった人が言うには、アメリカに行ったら最初につれていかれるのはどこでも博物館だった。つまり、私たちの市はこういうところです、という名刺代わりになるのが博物館だった。気が付いたら、石垣にはないじゃないか、と。それで個人で石垣島の博物館をつくった。今ほとんどお客さんは入らないが個人できちんとやっている。安曇野市が市としてできあがったとき、旧町村段階の特徴はあるが、安曇野市全体としての名刺は持っていないのではないか。安曇野市とはこういうものです、ということがいえるような、名刺になるような博物館がほしい、そのために新博物館がぜひほしい。その際、すごく失礼なのだが、あれもこれもはやめてほしいと言った。博物館をつくろうとすると、どこの博物館でもあれもこれもいっぱい入れようとする。あれもこれも入れた結果、なにも見るものがない。特徴のないものはつくりたくない。そのときにも柱は３つくらいにしましょうとかいろいろ言ったが、まずひとつ、今後、少なくとも、切る・切らないという部分も含めて、データをしっかり提示する。資料２の２ページ目に入館者数を記載している。入館者数はこれでも微増している。いま学芸員の皆さんが非常に努力しており、ここ２年間くらいは増えている。そういうのを力にしたいと思っている。

それからもうひとつの問題、私は大事だと思う。世界を見た場合、とりわけヨーロッパの過疎化が進むような地域ではセンター化構想がなされており、電車で降りたところが駅であり、学校で

あり、博物館であり、そこに全部エネルギーを集中していく方向性が見られる。今後、安曇野市のようなレベルの市ではどうするか、市の行政の側でしっかり考えていくべきことだが、何を核にしてこの市はできあがっていくのか。例えば、近い例でいうと、塩尻市の場合は、図書館が町の中核を占めるようになり、人口レベルから見るとはるかに大きなものをつくって成功している。何をつくる、つくらない、というのは市の方針になるが、市の文化を担えるだけの用意をしようとしているのか。市民の皆さんが１票を投じて市長を選んでいるわけだが、その市長をどうやって動かすのか、そういったことにも関わっているだろうと思う。

繰り返すが、福島委員が言われたことはとても大事であり、これからデータは出すようにするが、論議ができる部分とできない部分がある。まず、私としては、求められている部分として、３つのケースのうち、どれを選ぶかということと同時に、意見をつけたい。これを選ぶならこうしてほしい、という意見をつけながら戦っていくしかないだろうと思っている。

委員・・資料３「安曇野市の博物館・美術館等が抱える課題」に「バリアフリー化・ユニバーサルデザイン」と書いてあり、おっしゃるとおりだが、これで追いつかない部分がある。例えば、私どもは団塊の世代だが、10 年経ったら実際に美術館、博物館に足を運べる人はどんどん減っていく。今、学芸員の皆さんの努力で入館者数が微増しているという話も聞いたが、現実問題として、年を取って運動機能が落ちてきたら、そうしょっちゅう美術館へ足を運べなくなってしまう。したがって、委員長の話にもあったが、「WEB 化」というのがひとつのキーワードになると思う。確かに、ホームページをつくったくらいでは見られないが、かなり集中的に資産を投下すれば、相当な規模のものができる。通信速度など機器の向上も期待できる。そうすると博物館のあり方も建物ではないかもしれない、と考えられる。

また、資料３「安曇野市の博物館・美術館等が抱える課題」に「観光振興・産業振興・まちづくりとの連携」とあるが、業者を抱き込んでいくべきではないかと考える。よくシャッター通りになったという話を聞くが、シャッター通りにもそれなりの趣、価値がある。商売とか行政の失敗という点もあるかもしれないが、それを含めて大きな時間のながれの中で起こっていることであり、商店街の衰退も町の歴史であろうと思う。そういうことも積極的に取り込むくらいでよいのではないか。松本市の中町は、最近は商業主義が出過ぎているように思うが、廃れた町が成功した例に見える。また、青梅市には昭和通がある。そういう昔のものを大事にすることによって地域が生き返るケースもあると思う。もし立派な博物館を建てるなら、都市空間として全体をどう発展させるのかという視点がないと、ただ建物をつくっても仕様がないと思っている。先ほど申し上げたが、WEB との連携もぜひご検討いただきたいと思う。

委員長・バリアフリー化は全館必要である。ただ、どれだけお金をかけるか、それは市民がどれだけお金を出すか、ということなのだが、私はすべてはやりきれないと思う。市はどれだけのお金を出してどれだけの効果を出すのか。個人的には、何もしなくても、周りの人が手を貸してくれるような社会をつくるべきで、バリアフリー化をしました、責任をとりました、というような社会はあってはならないと内心思っている。その意味で、私たちは何ができるかを考えるべきだと思う。

また、先ほど私は WEB という方策もあると言ったが、本当を言うとそれには反対である。皆さんがルーブル美術館に行くのは本物が見たいからである。そのためにも本物を用意する空間をどれだけ確保するかが問題である。ルーブルにしても、展示しているのはごくわずかである。今まで私たちにはその視点がないように思う。博物館は今後どうあるべきかという論議のなかで、今我々に問われているのは、方策として３つのケースからどれを取っていくか、ということ。それから先はまちづくりの話になっていくと思われるが、まちづくりの話までこの委員会でやるべきではないと思う。基本的に、３つのケースのうち、これが一番いいのではないか、２番目３番目とするならこれだけの条件をつけてほしい、という論議にしていきたいと私は思っている。繰り返すが、博物館は未来のためにあるのであって、今私たちが知っていることはほんのわずかしかない。私たちが捨てるのではなく、私たちが何を用意できるのか。私は山梨県立博物館をつくったが、ここには富士山や武田信玄のコーナーもない。この館は「成長する博物館」ということを

主張している。でも武田信玄のコーナーをつくってしまったら、２次構築、３次構築はないだろう。私は一応武田信玄の研究者だが、今の私には展示できるだけの能力を持っていない、もっともっとみんなで勉強してそれから展示をやりましょう、という言い方をしている。だから、一番大事なのは、博物館で何を用意すべきか、これが大前提だと思う。今まで博物館を好きな人は、見ていたのは展示だけで、バックヤードはほとんど見ない。私たち博物館協議会の委員の皆さんにもぜひバックヤードを見てほしい、ということで相当見て歩いた。そして、これから税金をどこまで使ってよいかという流れの中でやっていかなければならない。全部要求してもとてもできない。その上で、博物館として何があるべきか、何は無くてもいいいけど何はほしい、というのと、ケース１２３をあわせて意見をつくっていくしかないと私は思っている。
こんな状況で委員会では言いたいことを言ってやっていくしかないだろうと思っている。皆さんとできるだけ論議をしていきたい。感想で結構なので、順にご意見をいただきたい。

委員・・委員にと言われたとき、博物館といえば昔のものを展示するところ、ということが第一に頭に浮かんだ。ある地域では、過疎化とか高齢化、人口減少という課題に対して、いろいろなものをひとつのところに集めている。交通アクセスをきちんとしておけば、みんなひとつのところでいろいろなことができる。いくらいいものをつくっても、行きにくいところよりは、立ち寄りやすいところの方がよいのではないか。また、博物館というものをまるっきり逆から見てみてもいいかな、ということを感じた。

委員・・明科の公民館で仕事をしているが、本当に高齢化が進んでおり、公民館活動でさえ参加者が高齢化、固定化してきている。高齢化社会が進むのを阻止することは不可能であるが、ひとりひとりが質の高い生き方をしてくことが求められるのではないか。そういうときに、博物館・図書館・公民館などで生きがいを求めて、それが質の高い生き方につながっていく。そこで高齢者と若者・子どもがいつも交流でき、高め合っていくのがよいのではないか。そのように考えていくと、安曇野市として大きなものを１か所につくってしまうよりは、５地区が合併して安曇野市をつくっているが、それぞれの地区の歴史・文化を大事にした、公民館的な博物館があってもいいのかなと考えている。

委員・・博物館協議会では夢を語っていればよかったのだが、美術館・博物館では皆さん本当に真剣にやっていた。考えてみると、年をとって時間ができてから、興味を持って美術館・博物館を見てください、といってもそれは絶対あり得ないことだと思う。やはり小さいとき、若いときから、そのとき興味はなくても、そういうものに触れることで、成長し老人になっていったときに美術館や博物館がいいなと思うのではないか。自分のことを考えると、若い時から美術館を見てきたし興味があったなと思う。ぜひ子どもたちにそういう興味をもってもらえるものができたらいいなと思う。

委員・・私は烏川渓谷緑地でインストラクターをやってきて、本物はすごいということを信じて、感動していただいたときの喜びを感じてやってきた。私は、安曇野市はこういうところだと紹介している所がないと思っている。先ほど委員長がおっしゃったように、「名刺代わり」というのがとても大事だと思う。西山文化と東山文化で、山のつくりとか生活スタイルとか違うところがあり、それぞれ残っている資料館なども大切だと思うが、そこに足を運んでいただくための入り口となるものがあったらよいと思う。私は、仕事柄、全国とまではいかないが、行けるところの博物館は結構行ってきた。なぜこんなに人がいるのかな、というくらい来館者が多い博物館は、すごく魅力があり、独自のものをもっている。私はプロではないが、ある面ではプロ意識をもってやってきたので、そういう人が行きたくなる、あそこに行って見てきたい、盗んできたい、と思わせるものがよい。先ほど、博物館は観光客のためにあるのか、市民のためにあるのか、という話が出たが、私は両方だと思う。財源や維持していくことも大事だが、学芸員の集中化というのも魅力がある。大阪には、たくさんの専門家がいて、子どもたちがいつ行っても昆虫のことや市の歴史のことについて答えてくれる学芸員が在中している館があり、イベントなども行われている。いろいろ頭の中に意見はあるが、そんなことを考えながら、これからも参加させていただきたい。

委員・・現在、指定管理者として４館の運営をしている。いろいろ現実的な問題を痛感しているところもある。そういう現状を皆さんにお伝えしながら方向性を見出していけるような参考意見を出していきたい。やはり博物館というものはお客さんに来ていただいて成り立っている館（やかた）、組織である。サービス業である。来ていただいた方に満足していただいて、また来ていただける、リピーターになっていただく。そういうおもてなしの心も必要になってくる。当然、館は統合・廃合など、博物館構想の中で新しい方向に向かっていくが、気持ちの入れ替えをしながら、新しい構想の中で、物・人、一体となって取り組んでいかなければならない。教育関係において、最近、財団でも、各館、工夫をしている。地元の小中学生に大いに利用していただく、目を向けていただく取り組みをしている。指定管理者として税金をいただいている中で、期限のある指定管理期間ではあるが、税金を払っていただいている方に大いにお出でくださいと言えるような体制づくりに取り組んでいく。いろいろと参考意見をお聞きし、実態を相談しながら提案させていただきたい。

副委員長・博物館協議会のときにも言って笑われたのだが、私は安曇野市自体が博物館そのものではないかと申し上げた。西から眺めても、東から望んでも、このような素晴らしい景観はどこにもない。その中にどういうものが点在しているのか。旧町村で指定された文化財もあるが、地元の方々が日常どうってことないと思っていても、他所から見ると素晴らしいと思われるものもある。私がお預かりしている文化財保護審議会では、そういうものを峻別、調査している。それらを、建物をつくってその中に閉じ込めてしまうのはいかがなものか。現地へ拝観に行く、会いに行く、そういうコースをつくりながら、そういうものをデータとして集積したセンターとなる博物館を考えてもいいのではないか。あまり風呂敷を広げると行政が困るし非常に大きな構想になってしまうが、現在あるものを有効に管理したり展示したりしながら皆さんに安曇野市として誇れるものを紹介したい。この先にはこんなものがある、あそこへ行ってみてください、ここへこの時期に行ってください、こんなお祭りがあります、こんな珍しいものが食べられます、そんな情報の基地になるような博物館がよいのではないかと、かねがね思っている。

委員長・皆さんの意見を聞いていると非常におもしろい。方向性もこれから決まって来るだろうと思う。どちらかというと今回の資料では問題点が挙げられていたが、現状どのような良い点があるのか、できたら費用はどれくらい違うのか、学芸員ひとり雇うには年間どれくらい費用が必要なのか、こうしたデータがほしい。これから先、論議していくときに予算的な裏付けが必要となる。どれくらい維持管理費がかかるのかという問題も見ていかなければならない。

また、今日の話の中で、重要な視点として、子どもたちに対して文化をどのように提供するのか、これは非常に大事なことである。新市の博物館であろうが、WEB 博物館であろうが、それは子どもたちに対してどのように文化を提供できるかを考えていくことにつながる。そして何より、博物館構想というのは、そのまま安曇野市の未来に直結するという、非常に大きな示唆をいただいたように思う。

今日は顔見せであり、時間も限られているのでこれくらいにするが、これからどんどんお互いに論議をし、もう少し近くで言いたいことを言えるようにしていければよいと思う。

他にご意見は。

那須野課長・資料３の後ろに、「安曇野市新市立博物館・美術館の主な要素」と、３枚の表がついているのでご覧いただきたい。１月２月に予定している２回の会議に向けて、今後どのように整理をしていくのがいいかという手法の提案である。ここに挙げた要素表というのは、今こちらで調整しているもので、完成版ではない。これは安曇野市の美術館・博物館で、何を背負わなければならないかということを項目別に書きだしているものである。今、収蔵や展示しているものもあれば、まったく抜けている部分もあり、さらに重複している部分もある。要素を書き出すことによって、最終的にどこに各要素を納めていくかという見当をつけるための資料である。次に、ケース１の表を見ていただくと、一番下に新市立博物館の欄がある。もし建設できたとすれば、要素表のかなり多くの部分が新市立博物館の欄に記載されるはずである。そして、残りの要素をどうしてくか

ということになる。また、現在、基幹博物館である豊科郷土博物館はお役御免になるので、新しく文書館にするということになると、文書の要素は長期的には豊科郷土博物館の建物で担っていくのだというような絵が描ける。基本的に皆さんのお考えも含めながら、事務局、委託業者も含めて知恵をしぼって各ケースについて検討する。ケース３に至ってはそのままということになるので、重複する部分を避け、足りない部分はどこの館に付け足していくのか、そういったことを考える材料にしたい。それぞれ、５年以内の短期、中期、長期の視点で、役割を明確にしていく。この表がきちんと完成すれば、ひとつの構想として漏れのない形が作れるのではないかと考えた。３回目の委員会からはこの資料を用意し、ここをもう少しこうした方がいいのではないか、など、そんな議論につなげていければよいのではないかと考え、ご提案させていただく。

委員長・実に見事だと思う。身近なところで見ていると、有るものしか見なくて何が足りないのかという距離感がないが、事務局の方では距離感がある。足りないものをどこに置いたらいいかを考えていただき、それを前提にしてシートをつくっていただき、これで進めさせていただきたいと思うがよろしいか。

各委員・・・了承。

委員長・繰り返すが、私どもも真剣にやらなければならないが、事務局も本当によくやってくれている。さらに我々がしっかりやることによって、事務局もさらに働くという相乗効果がでてくる。いかに事務局を使うかは私たち次第で、どんどん要望すればよい。でもその代わり、言った以上、責任を取ってくれ、と我々に返ってくるので、双方でいい形にしていきたい。

**（4）その他**

なし

**８．　その他**

熊井係長・・事務局から連絡事項がある。机の上に配布したカードは委員証であり、記載されている施設に提示していただくと無料で入館できる。ぜひ有効活用していただいて、お時間の許す限りそれぞれの館に足を運んでいただきたい。

今日は、この後、施設見学を予定している。公用車を用意しているので、駐車場にお集まりいただきたい。次回の第２回の策定委員会では施設見学のみを予定している。本日は時間の都合上、３か所程度しか回れないので、第２回の策定委員会では、残りの施設を回りたいと考えている。時期的には、11 月下旬を予定している。決まり次第、通知するのでご参加いただきたい。

**９．　閉会**

北條部長・・熱心な議論をありがとうございました。これをもちまして第１回安曇野市新市立博物館構想策定委員会を閉会します。引き続きよろしくお願いいたします。

以上

（この後、安曇野髙橋節郎記念美術館、穂高会館、穂高陶芸会館、文化財資料センターを見学し、解散。）